

府中市観光振興プラン検討協議会 第2回 議事録

1 日時：令和2年12月11日（金） 10時00分～12時00分

2 場所：市役所北庁舎3階第1・2会議室

3 出席者：＜順不同敬称略＞

公募市民	石川伊智郎	
商工関係団体の推薦する者	井上博正	むさし府中商工会議所
府中観光協会の推薦する者	宇田雅志	府中観光協会
学識経験を有する者	大下茂	帝京大学教授
府中観光協会の推薦する者	大津貞夫	府中観光協会
学識経験を有する者	小野一之	郷土の森博物館館長
商工関係団体の推薦する者	筒井孝敏	府中市商店街連合会
学識経験を有する者	得居泰司	ジェイコム東京 J:COM アナウンサー
民間事業者の推薦する者	長尾諭	東日本旅客鉄道株式会社
民間事業者の推薦する者	林健太郎	京王電鉄株式会社
商工関係団体の推薦する者	廣瀬健	まちづくり府中
公募市民	深澤廣太郎	
公募市民	横山年子	

4 次第

(1) 開会

開会挨拶(大津会長)

委員出席状況(事務局)

傍聴希望の状況について(事務局)

配布資料の確認(事務局)

(2) 確認事項

第1回府中市観光振興プラン会議録について(事務局)

質疑・意見聴取

(3) 報告事項

①府中市観光振興プラン検討ワーキンググループ(WG)について

②前回協議会の振り返り/WGの取り組み内容の報告について

質疑・意見聴取

(4) 審議事項

府中市観光振興プランの骨子作成に向けた方向性(案)について

【議論】

- ①府中市における観光の位置づけについて
- ②市内の多様な主体の連携について
- ③府中市の観光の課題についての感想・ギャップ
- ④戦略の方向性について

(5) その他（事務局）

次回開催日：3月5日（金）午前10：00から

場所：北庁舎3階第1・2会議室

5 議事の内容

(1) 開会

開会挨拶(大津会長)

【大津会長】

本日は、師走の大変お忙しい中、またコロナ禍の中ご出席いただきましてありがとうございます。これから益々寒くなり、新型コロナウイルスだけでなくインフルエンザ等も蔓延していくと思いますのでご自愛いただきまして乗り切っていただきたいと思います。只今より第2回府中市観光振興プラン検討協議会を開催したいと思います。

委員出席状況（事務局）

【事務局】

本日の委員の出席状況ですが、渋谷委員、都留委員より欠席のご連絡をいただいております。現在15名のうち過半数を超える13名が出席されていますので今回は有効に成立していますことをご報告いたします。また、第1回の協議会で欠席しておりました長尾委員、林委員にご出席いただいておりますので、簡単に自己紹介をしていただければと思います。

（長尾委員、林委員より自己紹介。）

傍聴希望の状況について（事務局）

【事務局】

本日は1名の方が、傍聴を希望され検温を済ませた上で会場の外でお待ちしています。

【大津会長】

委員の皆様にご確認いたします。傍聴希望者の入出を許可してよろしいでしょうか。

（全員異議なし）

それでは、傍聴希望者の入室を許可致しますので事務局は案内をお願いします。

（傍聴希望者入室）

配布資料の確認(事務局)

机上に配布した資料の確認

(2) 確認事項

第1回府中市観光振興プラン会議録について(事務局)

別紙資料 2-1 参照

【大津会長】

第1回府中市観光振興プラン会議録について、議事録を各委員の皆様宛に事務局から事前送付されております。本日資料 2-1 としてお手元にございます、各委員の皆様にご確認いただいた中で、修正すべき点や何かお気づきの点がございましたら、ご意見をお伺いしたいと思います。何かございますでしょうか。

●質疑・意見聴取

【廣瀬委員】

9 ページの「すでに分散してしまっているところもあると思いますが」との表現に関して、「どのようなスケジュールで設定していく予定でしょうか」という意図ですので変更させていただければと思います。

【大津会長】

それでは、本日ご指摘のあった箇所を修正し、資料の通り第1回議事録の内容を確定したいと思いますので、事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたいと思います。

(3) 報告事項

①府中市観光振興プラン検討ワーキンググループ (WG) について

別紙資料 2-2 参照

【事務局】

資料 2-2、府中市観光振興プランワーキンググループ参加者名簿をご覧ください。第1回の協議会でご審議頂きましたが、次期観光振興プランの検討を進めるにあたり本協議会では観光振興の柱となる基本目標や計画の方向性、重点を置くべき取組の協議を行っていただきたいと思います。具体的な施策の検討についてはプラン確定後の関係主体に基づく事業推進体制を見据えまして府中市観光振興連絡会を主体としたメンバーによるワーキンググループにて議論を進めているところでございます。9月の第1回協議会から本日までにワーキンググループを2回開催しております。参加者につきましては資料 2-2 の通りですのでご承知おきを願いたします。

ワーキンググループの協議内容につきましては、次の次第 3-2 報告事項で JTB 総合研究所よりご報告を致します。ご説明は以上となります。

●質疑・意見聴取

(異議なし)

②前回協議会の振り返り／WG の取り組み内容の報告について

【事務局】

別紙資料 2-3 参照

第1回協議会、第1回、2回のワーキンググループの振り返りをご報告させていただきたいと思

ます。

[3 ページ：第1回協議会の振り返り]

第1回協議会にて皆様からいただきましたご意見を一部ご紹介いたします。

- ・府中らしさ、独自性のあるプラン
- ・地元の人と一緒に楽しめ、文化を感じることが出来る観光地にすることが大事
- ・程よい田舎、都会の中の田舎
- ・府中の売りは何で、自信を持ってお勧めできる場所はどこか
- ・地域の記憶を辿ること、歴史というより地域の記憶、それを辿っていくと先程の国府の話、府中の話、そしてそこに生まれてくる人情とか人柄
- ・魅力は人、結集する力
- ・くらやみ祭、ケヤキ並木、崖線、よさこい祭

[4 ページ：第1回協議会の振り返り]

- ・人と人が接点を持つと人に紹介したくなるということに繋がるし、愛着も深まっていく。
- ・人とのコミュニケーションを含めた接点を作っていけるようなプランにしていけたら良いと思う。
- ・府中の魅力は「都会の中の田舎、どこか下町な、人と人との垣根が低い、それでいて溶け込むには時間がかかるという昔の首都、武蔵国的な、封建的なところがある魅力的な街。
- ・横丁、路地裏的なところが、SNS世代が失っている、人とのつながりをもたらしてくれる。
- ・府中は国府から始まって歴史が古い都市、宿場町として再生。歴史文化伝統がある街だが決して閉鎖的でない。
- ・武蔵国中から人が集まって、都市建設をした。
- ・観光危機管理：地震があったときに外国人観光客をどうするか、台風があったときにどうするか。
- ・観光教育：魅力は人、子どもの観光教育、子どもに対して観光、地域の良さ、地域の誇りを今から育てていって10年後に活躍する人材を作っていく。

[5 ページ：府中市観光振興プラン検討ワーキンググループ概要]

第1回府中市観光振興プラン検討ワーキンググループを、10月14日(水)に実施しました。参加人数は10名です。

第2回については、11月11日(水)参加人数11名にて実施いたしました。

[6 ページ：第1回WGの振り返り]

第1回については、以下の4点について協議いたしました。

- ①観光資源・コンテンツの再考
- ②ターゲット（ペルソナ）の設定
- ③コンセプト・スローガンの作成
- ④コンセプトの方向性確認

[8～12 ページ：観光資源・コンテンツの再考]

あらかじめ資源リストを提示し、リストにないコンテンツなど議論いただきました。例えば、歴史文化は、郷土かるた、くらやみ祭等のお祭り、産業ではNEC、五藤光学研究所、京王グループと

というお話がありました。人では、東京外国語大学、東京農工大学に在学中の外国人という意見もいただきました。

その後、府中市の魅力を伝えることができる資源・コンテンツについて議論いただきました。

- ・歴史文化：大太鼓体験、大國魂神社
- ・自然：多摩川、はげや用水路
- ・産業：NEC、五藤光学研究所、J R A、サントリー東京・武蔵野ブルワリー
- ・スポーツ：ラグビー等のスポーツが盛ん
- ・人：人情味の厚い府中の人
- ・その他：オタクの文化、ユーミンの中央フリーウェイ、漫画ちはやぶるのモデル

などのご意見をいただいております。

[13～20 ページ：ターゲットの設定]

府中市の資源・コンテンツを想定した主要ターゲット層は？そのターゲット層のイメージは？ということで3チームに分かれ議論致しました。

< A班 >

魅力を伝えることのできる資源コンテンツは美術館。ターゲット層は、日帰り・女性・30代・首都圏全域。ターゲット層のイメージは、情報に敏感で多様な生活形態。

< B班 >

魅力を伝えることのできる資源コンテンツは祭りが多く、ユーミンの中央フリーウェイ。ターゲット層はシニア・留学生・50～60代女性・10代後半～20代の男性。ターゲット層のイメージは、収入がある子育てが終了した層。

< C班 >

魅力を伝えることのできる資源コンテンツは宇宙、はやぶさ2、人工衛星、五藤光学研究所。ターゲット層は、多摩地域・子育て世代・教育熱心な親。ターゲット層のイメージは、子供に教育体験をさせたい熱心な親、父親の活躍の場。

その他：対象年齢は広範囲にわたるが、高齢者から30代は歴史、文化、食とし、その他（特にスポーツ等）は30代から10代。範囲は京王線沿線を軸に、その南北隣接地域を優先。

[21～25 ページ：コンセプト・スローガンの作成]

府中市が来訪者に提供できる価値は何か？府中市の何を伝えたいのか？府中市を人に例えるとどんなまちか？府中市は観光振興によってどんなまちにしていきたいか？を議論しました。

< A班 >

府中市が来訪者に提供できる価値は何か？

刺激と癒し 癒し：大國魂神社、けやき並木、自然 刺激：祭り、競馬場、サントリー等の非日常
府中市の何を伝えたいか？

歴史の厚み、未来につながるものづくりのまち

府中市を人に例えるとどんなまち？

「都会の田舎もの」都市的な機能を持ちつつ、豊かな自然や歴史、お節介な人たち

< B班 >

府中市が来訪者に提供できる価値は何か？

知識を求める層に様々な価値を提供できる

府中市の何を伝えたいか？

府中市の歴史、くらやみ祭りなど

府中市を人に例えるとどんなまち？

70代くらいの活発な人。どんな人とも仲良くなれる

< C班 >

府中市が来訪者に提供できる価値は何か？

歴史・文化・教育・ギャンブル等／梅園・あじさい・彼岸花など、東京 NO.1 を目指せるスポット

府中市の何を伝えたいか？

豊かな自然や歴史、暮らす人が府中が好きという思い

府中市を人に例えるとどんなまち？

つながりを大切にする世話好きな人、江戸っ子っぽい

< その他 >

『また来たくなる、また会いたくなる街府中』です。

府中は、昔から国府、宿場と人々の往来・交流が盛んなまち。天下分け目の大戦「分倍河原の合戦」すら「人の交差する場」でした。古くから「祭り」を大切にしてきたため人々の大事にしてきたその心は温かく人情味のあるもの。府中に触れた人々はその情を忘れずまた来たくなる街です。

というご意見をいただいています。

ビジョンの事例として、交流から発見が生まれる国際文化観光地箱根の事例をご紹介しました。

[26 ページ～：第2回WGの振り返り]

議論内容は以下の通りとなります。

①現行観光振興プランに対する感想・意見

②コンセプト・ストーリーの作成

③プロモーションプランの作成

④府中市の観光振興・プロモーション展開の方向性

第1回WGと協議会を踏まえまして、こちらでコンセプト・ストーリーを自然農業・産業・歴史文化にわけて考えさせていただき、追加・修正点を議論いただきました。

< A班：自然 >

キラーコンテンツ：45か所の直売所、公園、人

ターゲット（ペルソナ）：食に興味のある意識の高い方々、近隣の市、近隣県、都内

スローガン：心を癒しお腹を満たす府中

コンセプト追加修正ポイント：どんな農作物が有名なのか／収穫体験できるものは何だろうか／

古代米、小松菜が有名／1000名の農業従事者や45ヶ所の直売所は全国でどのくらいあるか／多摩川の河川水やハケは大地の恵みなのか／みかん、レモンを栽培／公園の賑わい

どのように伝えるか：近隣自治体との協力／口コミ等

< B班：歴史 >

キラーコンテンツ：お祭り

ターゲット（ペルソナ）：文化を伝えてほしいという意味も込めて若い方を中心に、小さいお子様を持った 20 代～30 代のご夫婦。祭りに馴染みのなかった方もターゲットとしたい。

スローガン：府中おどる街

コンセプト追加修正ポイント：神社に偏っている⇒武将と結びつけては（分倍河原の合戦など）／古道の表現を入れた方が良く／おしゃれなカフェと歴史が結びつかない⇒武蔵国府太鼓、和紙の店、蔵カフェ

どのように伝えるか：ツアーを組んで魅力を伝える／動画

< C班：産業 >

キラーコンテンツ：武蔵国の国府⇒農業：献上品／自然：家康鷹狩り／産業：国府があるため発展／文化：国府があるため発展

スローガン：日本の真ん中×東京の真ん中＝武蔵国府中

コンセプト追加修正ポイント：地元のお菓子屋さん／国府が置かれていたことのすごさが伝わらない／産業がなぜ集まったのか伝わらない

どのように伝えるか：国府の中心のイメージを伝える／駅のポスター／電車の車内広告

[46 ページ：今後のスケジュール]

今回の協議会でご意見いただいたものを整理し骨子案の作成をしていきます。

2021 年 1 月の WG3 回目での協議も踏まえて整理を行い、3 月協議会で骨子案をお示しし、ご意見を頂戴していきたいと思っております。

【大津会長】

JTB 総合研究所より第 1 回協議会の振り返り、第 1、2 回の WG の内容の報告がありましたが、ご質問等ございますでしょうか。

●質疑・意見聴取

（意見無し）

それでは、報告事項は了承といたします。

(4) 審議事項

府中市観光振興プランの骨子作成に向けた方向性（案）について

別紙資料 2-4 参照

【事務局】

観光振興プラン骨子策定の方向性について整理しております。

説明の前に資料 7 ページをご覧ください。WEB 調査ということで、1 都 3 県 1000 サンプルの調査を行いました。

この結果を踏まえて整理していますので、まずご説明させていただきたいと思っております。

府中市を除いた 1 都 3 県、男女性別均等割り、エリア別と県別の回収状況を載せています。来訪経験は全体の 57.2%、年配になるほど高くなっています。東京都居住者では 67.9%、千葉県、埼玉県は 5 割以下、神奈川県は 5 割程度です。

[8 ページ：府中市のイメージ]

特にイメージはないとした方が3割います。いずれかに回答した方は全体の7割で集中してあげられているイメージはありません。競馬場・競艇が30.4%、公園が多い29.2%、自然にあふれている27%、というイメージがもたれています。一方歴史関連の項目、伝統的なお店や歴史的な建造物がある10.4%、有名な神社・仏閣・史跡があるが13.7%という結果になっています。

[9 ページ：主要なスポットの認知]

最も多いところから競馬場55.6%、大國魂神社27.6%、サントリー工場24.2%、ボートレース19.2%、府中の森公園18.9%という結果になっています。

大國魂神社は首都圏居住者の3割弱、東京都在住の方37.1%認知していますが、千葉・埼玉県は2割となっています。

[10 ページ：主要スポットの来訪経験]

競馬場は21.4%、大國魂神社16.5%、他スポットは10%以下となっています。

提示した主要スポットのいずれかを訪れたことのある人は全体の4割程度です。

[11 ページ：お祭り・イベントの認知]

日本ダービー・ジャパンカップは29.7%、くらやみ祭は8.8%、東京都居住者でも14.5%という認知状況となっています。

[12 ページ：お祭り・イベントの来訪経験]

くらやみ祭3.2%ということでキラコンテンツと言われておりますが、現状での認知と来訪経験ではこのような結果となっています。

[13 ページ：来訪目的／直近の来訪]

特定の目的に集中せず、分散しています。競馬・競艇23.1%、仕事20.6%、観光施設・レジャースポット16.8%、寺社・仏閣・旧跡の訪問15%、自然風景・景色を楽しむ13.3%となっています。キラコンテンツがなく、来訪している方は目的が分散している傾向です。

[14 ページ：旅行内容／直近の来訪]

一人35.5%、友人・知人25.9%、夫婦2人・恋人やパートナー2人が16.1%で8割を占めています。97.4%と大半が日帰りです。

[15 ページ：満足度評価]

直近の来訪について確認した結果ですが、満足（やや満足を含む）が62.0%。不満は2.1%となっています。しかし、とても満足は8.0%程度です。年齢別にみると男性20代が好意的評価、女性では40～50代が高くなっています。

[16 ページ：来訪意向]

今まで来たことがない人も含め、府中市に訪れたい人は40.0%、来訪経験者でリピート意向を示している人は51.5%となっています。現行プランで謳われている「一度府中に来訪するとファンになる」というのは、必ずしもそうではないことがわかります。

[17 ページ／推奨意向]

府中市を勧めたい（やや勧めたいを含む）は36.9%、20代男性は56.0%と高い傾向にあります。

[19 ページ：コンセプト受容性評価（府中の産業）]

コンセプトの文章や写真を提示して評価をいただいた結果、興味を持った方は全体の45.0%、府中

を訪れてみたいという方は 40.8%、興味度は 20 代男女が比較的高い傾向にあります。

[21 ページ：コンセプト受容性評価（府中の自然）]

興味を持った方は、全体の 45.7%、来訪意向は 44.4%となっています。興味・関心度ともに 20 代男女が大きく上回っています。

[23 ページ：コンセプト受容性評価（府中の農業）]

興味度は全体の 41.6%、来訪意向は 35.6%、やはり 20 代男女が多く興味を示しています。

[25 ページ：コンセプト受容性評価（府中の歴史）]

興味度は 46.3%、来訪意向 43.9%。20 代男性は興味度、来訪意向ともに多く上回っているほか、60 代女性の興味度・来訪意向も比較的高くなっています。

[26 ページ：コンセプト評価後の府中来訪意向]

一連の説明をしたあとに、改めて府中への来訪意向を確認し、全体の 45.1%が来てみたいという結果になっています。コンセプト提示前と比べて 5%上回っています。

主な結果は以上となります。これを基にして、骨子の方向性を整理したものが、1 ページの内容となっています。

[1 ページ]

1. 府中市観光振興プランの概要

- ・プラン策定の目的
- ・プランの位置付け
- ・プランの計画期間／プランの目標
- ・観光振興へ向けた施策

プランを作っていく上で非常に重要な部分となります。新プラン検討項目というところで、総合計画において観光は、商工業等産業振興という非常に狭い範囲で位置付けられています。何らかの施策を打って、周囲の方に来ていただき、経済効果を期待するという流れになっていると思いますが、府中市の特性を考えていくと一般的な観光という枠組みだけではなく、「観光」の持つ交流、他地域の人々との関係構築（関係人口）、多様な主体の連携等、幅広い機能を活用する方向で位置づけ直すなど、しっかり示して計画を立てていった方が良いと考えています。市の色々な取り組みに紐づけられると思いますが、冒頭で位置づけをしっかりと定めて記載していきたいと考えています。

[2 ページ]

2. 府中市の概要と観光の現状

- ・府中市の概要
- ・主な観光資源と特産品
- ・観光の動向

現状のプランを見ていただくと、点としてのスポットが並列で並べられており、WGでもどうつなぎ合わせるのか議論をしていただきました。

その結果として、コンセプトについて検討を行い、調査で評価を得ました。コロナ禍でイレギュラーな状況ではありますが、観光の流れるには、非常に多様化が進んでいます。質の高い体験、経験価値の提供、テーマ型観光、地域と関係の場の提供、関係人口、マイクロツーリズム、ワーケーション、色々なトレンドがあります。こういったトレンドも意識しながら考えていかなければいけない。

[3 ページ]

3. 府中市の観光の課題

- ・観光の現状分析
- ・観光振興へ向けた課題とターゲット

調査の結果を改めて整理しております。

市の特徴となる強いイメージ要素はなく、歴史についてのイメージも現状では薄いです。くらやみ祭はキラコンテンツですが、認知度は9%と低いです。97%は日帰り、20代男性は色々な目的で来ています。来訪経験者の再来訪意向者は52%と高くなく、訪れた方に魅力をアピールできていないという現状があります。産業・自然・農業・歴史のコンセプトに対し、20代男女の評価が高く、満足度・再来訪意向は決して高くありません。

[4 ページ：現行プランSWOT分析の再考]

現在のプランに掲げているSWOT(強み・弱み・機会・脅威)を記載しています。イベントなど数多く行われていても、周囲にはあまり認知されていない。認知度は低くても、一度来訪した人は満足度、再来訪意向は高いです。一般的な観光の調査としては、満足度、再来訪意向は低い傾向にあります。結果を見て、それぞれ認知されているものとギャップがあると思いますので、後程そのギャップを議論いただきたいと思います。

[5 ページ]

4. 基本目標と施策の方向性

- ・基本目標
- ・施策の基本方針
- ・施策の方向性

ターゲット・コンセプトはWGで議論を進めています。調査結果が出てきて、改めてターゲット・コンセプトを検討していきます。

[6 ページ]

5. 観光振興へ向けた施策

- ・施策の体系／施策の内容

6. プランの推進へ向けて

- ・推進体制・スケジュール及び重点施策
- ・最重点施策のイメージ

コンセプトまでしっかり確定したところで、一つ一つ作りこんでいくというような作業になっていきます。

【大津会長】

只今、資料に基づいて説明がありました。この資料に記載されている基本的な考え方、この協議会で審議していく観光振興プランの大枠を決めるような内容となりますので、項目ごとに確認していきたいと思います。

まず、1ページ目「府中市における観光の位置づけについて」のところです。

現行プランでは、商工業観光振興における「にぎわい創出」として狭い範囲で位置付けられていますが、府中市の観光の現状や特性を考えると、数的な入込だけでなく、他地域の人々との様々な

交流・関係づくりの取り組みが必要ではないかという説明がありました。まず、皆さんに府中市の観光振興の在り方、どんな考え方で推進していくのかについてご意見をお聞かせいただきたいと思っています。

【議論】

①府中市における観光の位置づけについて

【廣瀬委員】

都心の郊外の魅力は前回からも話は少し出てきていましたので、それも含め次のプランに向けて位置付けていった方がいいと思いました。ネットワークの話で、京王やJR沿線の連携という視点も大事だと思いますし、WGでコンテンツの中に川、緑道、はけ、街道等キーワードも出ていたので、他地域、近隣市も含めて、つながりをもって府中の居場所を長く位置付けていく考え方も大事かと思います。少し気になったのが、前のWGの中で美術館等、文化的な部分をターゲットにしたかどうかという話がありましたが、最終的に見えなくなっていると思いましたので、コンセプト作りの中で何故消えていったのか経緯として知っておきたいと思います。美術館や歴史の場所に関していうと観光プロモーション課だけではなくふるさと文化財課やほかの教育系の課と連携して施策、町内の連携も必要になるのではと全体を見て感じました。

【大津会長】

廣瀬委員の質問についてJTB総合研究所よりコメントはございますでしょうか。

【JTB総合研究所】

ご指摘の通りでございます。ご質問があった美術館、博物館についてWGで議論していましたが、最終的にコンセプトを作る上で他のコンテンツとどう結びつけて語っていくかという点で、検討をしているところでありました。次回のWGで再度検討していかなくてはいけないと思っています。例えば、WGの議論でNO1があるという意見や実際に集客しているものが他にもあるというようなご意見がありましたので、そういったものを踏まえ、関連付けていかなくてはいけないと思っております。近隣の市との連携という視点も加えていかなくてはいけないと思っています。

【廣瀬委員】

府中の農業を語るときに、東京農工大学や農業高校が非常に重要ななと思っています。大國魂神社の並木通りから軸で繋がっており、町の中心として農業高校は都立高校として唯一の農業高校ということもあり大事なコンテンツかと思えます。20代若者も関心を持ってもらえておりますし、農業高校は最近市外から多く生徒がきているという話を校長先生から伺ったことがあるのでコンテンツの一つになると思います。

【大津会長】

他にご意見のある方いらっしゃいますか。

【井上委員】

自然や産業が入っているが、商業が何にも入っていない。府中市はショート観光だと思うが、これの究極というのが日本橋の三越や高島屋で1日5~6時間ビルの中にいます。あれは観光だと思います。この近くでいえば南大沢のアウトレットであり、3~4時間いるので観光になっていると思います。高尾山に行くのか、多摩動物公園に行くのか、商業施設に行くのかという流れが正直ある

と思います。多摩地区の中を見ていると、10万人以上の商業施設があるのは府中、立川、吉祥寺、町田、八王子くらいしかありません。基本的に、大國魂神社や井の頭公園など自然と一緒に楽しめるのは、府中、立川、吉祥寺です。その辺をうまく利用しなくてはいけないのかなと思います。美術館や博物館は離れてしまっていますが、近くに持ってきてくれると観光になります。上野で3時間待ちの美術館も府中では20分で入れます。せっかく観光に使えるのに教育のものになっているのもったいない。お祭りについては、市外の方に9%もよく認知があったというのが本音です。市の中心部から離れた方々にお祭りに来たことがあるかどうかアンケートを取ったら、何年に1回という結果になると思います。お神輿は府中の人たちはキラコンテンツだと思っていますが、以前定点観測をした際は三之宮から四之宮、8つの神輿のうち半分がけやき並木通りを通過したところで観光客は帰ってしまっています。本当にキラコンテンツなのかと疑問に思っています。都会の田舎をもっと出してもらわないと自然で言ったら八王子に敵うわけがないし、商業で言ったら立川、吉祥寺に敵うわけがないので、うまく融合してほしいと思います。

【大津会長】

他にご意見のある方いらっしゃいますか。

【筒井委員】

WGの歴史の中で遺跡が入っていないが、郷土の森ではジオラマが置いてあり、遺跡が日本でもかなり古く、出た数も多い。白糸台掩体壕も珍しいものであります。スポットとして考えられないでしょうか。また、近隣市とのつながりということで、国分寺あたりも国分寺遺跡ツアーを組んで大勢の人が歩いています。ついでに武蔵台公園を歩いたりするのですが、そういったところが入っていないと思います。メディカルキャンパスが西国分寺にあり、多摩の基幹病院ですから多数の方が来られています。その南側に国分寺崖線がありますが、病院が目的ではない人も訪れていると思います。府中に駅が14個あり、みんな個性的な駅で、駅を中心とした観光というのも出来るのではと思います。

【大津会長】

先程の説明の中で、大國魂神社やくらやみ祭等が出て参りましたが、小野委員いかがでしょうか。

【小野委員】

今までの話を頂戴し、博物館として考えたことは、すべての観光資源の窓口として案内をしていきたいと思っており、博物館の役割は大きいと思いました。先程、詳細な調査データをいただきましたが、くらやみ祭も博物館も美術館も、もっと認知度を伸ばせると思いました。

コンセプトや方向性を考えていく場合、観光の持つネットワーク化が一つのポイントとなると思います。もう一つは訪れる方と受け入れる側のギャップを埋めるということ、前回民俗学者の宮本常一の言葉として紹介しましたが、まずは地元の人と一緒に楽しめる、一緒に参加できるということがこれからの方向性の大きなポイントになると思います。

それを踏まえて核となるのが、観光化のモデルだった、くらやみ祭だと思います。お祭りは意外と閉鎖的で見ると参加する人が違うというところがありますが、くらやみ祭はそういった点を克服しながら観光化に成功した国内でも珍しいお祭りではないかと思っています。江戸時代に講中を作り、参加型を取り入れています。近代に入っても太鼓が増え、お囃子や山車なども入ってきて、見るだけではなく参加型のスタイルを取り入れてきたお祭ですので、まだまだ可能性があると思います。

【大津会長】

まだまだ意見をいただきたいところですが、ここで大下副会長より議論の大筋について意見をいただきたいと思います。

【大下副会長】

観光の位置づけという観点に絞ってまとめてみたいと思います。

商業施設を観光と呼ぶのか、お祭りを観光と呼ぶのか、様々な観光の捉え方があると思います。国で指定している観光は、「日常圏を離れて活動すること」と位置づけられています。現在、マイクロツーリズムなども言われている中で、国の審議会で定めたことを我々の議論の中で受け取る必要はないと思います。府中市の観光はこういうものです、ということで日常圏を含めて市民の方が楽しめるような、ホスト・ゲストとして楽しめるようなものを観光として位置づければ良いと思います。そうすると商業施設や、博物館、すべてのものが対象になってくると思います。

観光は商業振興だけ、あるいは外からきて活性化するための起爆剤としてというのは、おそらくこのご当地の観光には一番似合わない形ではないかと思います。

それも踏まえて何のためにという点を考えると、シビックプライド、市民の方々の地元愛を高める、あるいは地元への帰属意識を高めるという意味もあり、かつ、外から来た人達に少しでも長く滞在していただいて商業振興にもつなげていきたいなど、様々な目的を含めたものとして観光を位置付けたいという話を、みなさんのご意見を聞いていると感じております。総合計画の中には行政が今後 10 年間の間に、どういう風に進めていくのかを定めた、企業でいうと経営戦略的なものが基本構想と業務計画として作られています。したがってその中の手続きとして、重点プロジェクトやリーディングプロジェクトというような形で観光を進めていきます、というような位置づけをしていただくと各部署のすべてのものが関わってくると思います。総合計画上は商業振興の中にあるということで、我々のこのプランが作られた後、観光が着実に成果をあげているということになれば、時期総合計画を迎える時に重点的なプロジェクトとして観光を成長的あるいは幅広く捉えたような形で広げていこうという流れにつながっていくと思います。このプランを作った上で目に見えるような形で展開されていくことに期待して、次回の計画の中に位置づけていただければ良いと思います。今の総合計画に記載があるからこの分野に絞りましょう、ということではなく、先程の議論で出てきたように、観光というものがまちづくりと関わりがある、産業との関わりもある、そういったことを意識したものとして府中市の観光を幅広く捉え、皆さんの承認が得られれば、そのように計画書の中に記載していきたいと思います。

②市内の多様な主体の連携について

【大津会長】

大下副会長からコメントがあったような位置づけにした際に、市内のどのような組織・団体と連携していった方が良いかご意見をいただきたいと思います。

【宇田委員】

J R の駅からハイキングに参加しまして、一緒に参加した友人が「府中ってすごい街だね」と言ってくれて、実際に来てみて初めて気が付くこともあると思いました。先程、府中の認知度のデータ

を見て、府中にいいものはあるが情報発信ができていないということがわかりました。情報発信ということに力を入れた方が良いがお金もかかります。このお金の使い方の良いのかということをも根本的に議論していかないとこの時代に紙媒体だとか、スクリーンに映すとか、その場所にいる人、手に取った人だけがわかるようなものになり、江戸時代としかいいようがないものになってしまいます。もっとお金をかけずに効率的に多くの情報を発信しないと何の意味もないと思います。その中でJRの駅からハイキングがいいと思ったのは、きっかけを作ってくれるということと、受付に行き地図通りに歩いていけば見せたい場所に連れていってくれること、お店の割引等の記載で商業とも連携していることです。

また、観光協会で国分寺との連携や、多摩、日野、調布等との協議会を作っていると思いますが、取組がバラバラになっており、府中市として一つにできないのかと常々思っています。

一番お伝えしたいことは情報発信、これにつきます。例えば博物館に行ってから市内を回ると良くわかると思います。

【大津会長】

それぞれの取り組みは縦割りになっており、横の連携がないというような話でした。次に府中市内を各地回り取材し、紹介をしている得居委員をお願いします。

【得居委員】

先程の調査における情報の分析は素晴らしいと思います。このような厳しい意見が出ているということをも町の皆さんにお伝えしたいと思います。例えばキラーコンテンツと言われるお祭りの関係者に伝えたいと思います。最近国分寺あたりの人から、府中市の方はお祭りの前によく挨拶に来ていたが、そういった人と人との交流がなくなってきているとよく聞きます。今うまく繋いでくれているのは、感覚的に情報を掴んで自由に動いてくれている20歳代の人たちです。今は残念ながらコロナ禍で命の危険を感じ外に出てない年配の人達もいます。我々も今取材に行けないので、情報はネットや行政の情報とかですが、調査分析で非常に良かったと思うのは、コロナ禍では20歳代の人達が話題を拡散してくれているということです。スマホ時代になんとか追っかけようとしている50~60歳代の人たちに逆輸出でお伝えしてもらいたいと思います。先程観光協会の話もありましたが、バラバラなだけに、色々なコンテンツがまとめて見られるようなものがあれば良いと思います。府中の玄関口は京王線府中駅や府中本町駅だと思いますが、疑問に思うのは観光情報センターが大國魂神社にあることです。駅周辺にあるところが多く、どうにかしましょう。頼みの綱は京王とJRだと思います。色々な情報の流通を担っていることと、地域の駅前の魅力を発信する上で情報を一番つかんでいます。小さなことや話題が先行するところにインターネットの社会があるのでうまく使えばいいのかなと思います。今府中で起きていること、これから起きることがつかめる場所があると取材しやすいですし、府中市民でさえ、町でこんなことを行っているのかと知るチャンスになるのかなと思います。また、地域のメディア、ケーブルテレビなども活用していけるのではと思います。

【大下副会長】

先程、観光は幅広いという話をしました。その結果、連携が必要な組織団体も幅広くなってきます。これから先を担う人たちのことを考えると、今の小学生や中学生など、観光まちづくりの教育も必要になってくるのではないかと思います。また高校や大学等教育分野との連携も必要になっていく

と思います。

マイクロツーリズムの観点から、公園や道路などの既存インフラの活用ということも、これからの観光の大きなテーマになってくるとすると、起爆剤となり、都市計画等の関わりも出てくると思います。また美術館や博物館の活用となると文化行政との関係が必要となってきます。このように観光の分野だけでなく、庁内の中も当然ながら、風通しの良い連携、全市的に支える体制を整えた上で、民間の方々の組織の中でも、中心になって進めて頂くのが観光協会だと思います。観光協会が真ん中であって、フラットな関係でつながるようなものが出てくると思います。ただ、先程情報を集めるというお話がありましたが、情報だけではできない部分もあります。DMOで情報発信をしましょうという話はあるが集客したからと言ってすぐ原資にはなりません。情報発信に必要な収益源を持たなくてはいけないと思います。この議論の中で実際にどのような形で持続可能な、なおかつ戦略的に観光振興の議論を深めていき、中心となる観光協会が皆さんの力を借りながら、どのような形で収益性のあるものを導き出し得るか、別途考える時期がいずれ来ると思います。

整理すると庁内の中でベースを作り、それを支える部隊がいながら民間事業者が中心となって進める観光事業に対してプラットフォームを広げていく必要があると思います。本日、様々な分野のことが皆様から出てきたということが議論の成果かと思っています。

最後に連携と言っても3つあると思います。1つは産業間連携です。産業も一次産業、二次産業、三次産業が連携を図ることが重要です。2つ目は世代間連携です。若い方、ベテランの方も世代を超えて連携をしていくことが必要です。3つ目は広域連携です。地域の中が1つにまとまった上で、他地域と連携を図っていくことが望ましいと思います。広域連携は地縁的な関わりとテーマによっても関わりが持てることがありますので、様々な観点からの広域連携を仕掛けていくにあたって、まずは、庁内、市内の様々な主体の方々がプラットフォーム的な関わり方が持てるような、今ある組織を拡大するような形で展開していくことが、先ほどの位置づけから見た連携の在り方かと思っています。

③府中市の観光の課題についての感想・ギャップ

【大津会長】

調査結果から府中市の課題について説明がありました。この課題整理をもとに府中市の観光の目標、戦略を立てていきたいと思いますが、まずこの調査結果についてご意見・ギャップを感じたことなどお聞かせください。

【長尾委員】

4月開催を延期し9月に5日間、駅からハイキングを開催いたしました。内容は、歴史の町府中として府中本町駅からスタートし、大國魂神社を歩き歴史スポットを歩いて西府駅ゴールで8~9キロ歩くコースだったが、悪天候の中平日は100名以上、土日もはさむとトータル1500名が訪れました。歩く会のサークル等も多く、府中の魅力を再確認しました。駅からハイキングは年配の方が多かったため、調査結果を見て20代が多かったことに驚きました。

【林委員】

駅を拠点として発信することは取り組んでいきたいと思っています。WEB等でも府中の街歩きを紹介しています。情報が集まる仕組みがポイントだと思いますので、しっかり作り上げることが大事だと

思います。アンケートは非常に興味深く、特に若年層の動きがきになりますが、コロナ禍なのでこういうデータが出ているのか、普段からの特徴なのか、具体的に教えていただきたいと思います。

【JTБ 総合研究所】

最近の傾向として、コロナ禍以前から 20 代男性などは地域を志向する方が多くなっています。都心の近郊・地方も含め地域志向が強くなっている背景があります。もちろんコロナ禍も後押ししています。安近短で自然志向、若い方、特に 20 代女性も反応しています。ちはやふるなど文化的なものにも 20 代が反応しています。色々な面で若年層が関心を持っています。

【大津会長】

いただいた意見を基に、戦略作りを行い次の協議会で確認する予定です。

④戦略の方向性について

【大津会長】

これから戦略を作成していく上で、何かご意見等ございましたらお聞かせください。

【廣瀬委員】

最近 FC 東京等が味の素スタジアムに来た時にファンが宿泊する場所がないというご意見がありました。「ラグビーのまち府中」というスポーツ振興を掲げてきた街であるので、スポーツ振興に観光的要素を加えていくのも良いと思います。

【大下副会長】

今回の調査においては観光マーケティング理論に則した形で展開をされていますので、その部分は高く評価できる結果として出てきていると思います。さらにコンテンツという考え方を出示されていますが、テーマが最初に出ており、その後ターゲットというお話がありましたが、今後の議論としては、資源を誰に伝えるかという話で、資源とテーマをうまく組み合わせたものをコンテンツと捉えていけば、コンセプトに近いところに行くと思います。コンセプトを出すうえで、府中にしかないもの（地域限定）、対象限定のお話がありましたが、もう一つ、期間限定が必要となってきます。お祭りなんかは最たるもので、その時しか行われぬものです。つまりは「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」ということです。これを背景に押さえた上で取り組むことが重要です。また満足度が出ておりましたが、満足度は時系列的に変わっていきます。満足度は何かというと期待と実感との差になって現れるものです。つまり期待があまり高くなければ、そこそこの実感でも満足度は高くなる場合があります。1 回目満足した方は、2 回目の際は期待が高くなります。そうなるとう実感と同じだとしたら、満足度は低くなり、次につながらない、人に伝えないということも多々あるわけです。満足度は人によって 2 回目、3 回目の時は大きく変わっていくことがあるということも意識した上で、評価をどう分析していくかが重要です。また、資源の認知と来訪の話もありました。認知度が低いけれども、知る人ぞ知る観光資源、また認知度はあるが行っている人は少ない資源は改善を加えることによって地域を代表するようなコンテンツになり得るので、ビジュアル的に整理して、こういった資源をどう誰に対して売っていくのか議論していくとともに、情報発信の際のラインナップにし、磨き上げていくのが良いかと思います。

方向性の話しですが、他で使われていないようなキーワードを使いながら、ご当地の観光を売っていきたいと考えた時に、皆さんから今日出ている例として、博物館を売っていく、公園的な使い方をしていくということであれば、「全市博物館公園化構想」みたいな形で観光を位置付けていくなど、使いまわしのない形でご当地にぴったりくるようなものを考えていただきながら、次回方向性への議論が深められればと思います。

【大津会長】

これまで項目ごとに確認してきましたが、本日意見聴取させていただいた内容を、私と大下副会長、事務局で整理し、次回の協議会で皆さまにお示しし、骨子案の内容、方向性について改めてご意見をいただきたいと思います。

(5) その他（事務局）

次回開催日：2021年3月5日（金）午前10：00から

場所：北庁舎3階第1・2会議室